

二人が育ったこの地で 子どもたちの成長を見守る

那須町中央部に移住

奥田さんご家族

妻の奥田美恵さんは埼玉県で生まれ5歳の時に那須町に移り住む。高校卒業後アメリカの大学に5年通った後、那須町に戻って来た。夫の奥田己起雄さんは生まれも育ちも那須町。

「アメリカでの生活に憧れもありましたが、実際アメリカで生活してみても改めて日本の良さ、那須町の良さを再認識し、那須町に帰って来ました。」と妻の奥田美恵さん。

奥田さん一家は、那須町の自然豊かな場所、夫の奥田己起雄さん、妻の美恵さんと子ども四人の家族六人で暮らしている。

二人が生まれ育った那須町で子どもたちを育てたいと考え、この地に永住することを決めた。

「今子どもたちは、自分たちが通った幼稚園と小学校に通っています。なんだか感慨深いものがありますね。」と話す奥田さん夫婦。家を建てる土地は己起雄さんが色々と探したそう。その中で分譲地ではなく、あえて那須町ならではの森の中に家を建てた。那須町には「グリーンハイツ田中」などの分譲地もあり、すぐ近くには木が生い茂る場所もある。住む環境を自由に選ぶことができるのも魅力のひとつだろう。



家族で遊べる 環境が豊富。

那須の補助金制度。

休みの日は家族で近くを流れる那珂川などで川遊びをしたり、那須山で登山を楽しむ。「私は自転車が好きだから、皆で走れるように子どもたちに教えてましたね。」と己起雄さん。

子どもが自転車に乗れるようになってからは、公園や田舎道でサイクリングを楽しんでいるという。冬は車で二十分で行けるスキー場でスキーを楽しむぞうだ。

美恵さんは、「那須町の小学校では小学一年生からスキー教室があるので、小さいうちに結構滑れるようになりますよ。」と話のように、那須町は自然が身近で、気軽に自然と触れ合える場所が多い。

奥田さん夫婦は那須町に移住定住する人のための補助金制度『住宅建設資金利子補給制度』を上手に活用し家を建てた。

また子育て支援制度として出産一時金や児童手当、また第三子以降の保育料が安くなる制度なども活用している。「子どもの医療費は十八歳まで無料なので助かってます。」と美恵さん。

「子どもが四人いると東京に行ったとき驚かれますね。頑張ったね、とか大変でしょ、とか。この辺だとあまり珍しくなくて、むしろ子どもを育てるのに向いている場所なんです。」とも語った。那須町は子育て支援センターや保健センターなど、子育てをサポートしてくれる施設が充実しているところも魅力の一つ。



地方だからこその子育て。

二人の実家は近所にあるそうだが、己起雄さんは「土地や家にこだわらなかつたですからね。両親とは付かず離れずくらいが丁度良いと思います。でも近くに住んでいれば何かあった時にお互いにすぐ対応できますからね。」

ご近所とも良好な関係を築いているという。「子どもが回覧板を持って行くとおじいちゃんやおばあちゃんからお菓子を貰えるから、子どもたちがみんな行きたがるんですよ(笑)。」と美恵さん。



己起雄さんこだわりの家には中庭があり、子どもたちにとっても大好きな遊びスペースである。

下の子ども二人と美恵さん。三人一緒に幼稚園へ通うのが日課である。



「自治会で催しがある時も私たちが子どもを見ていなくても、誰かが面倒を見てくれていたり、子ども同士で遊んだり。そういう人と人との繋がりに支えられて子育てできる環境が気に入ってます。そんな那須町にずっと住み続けたいですね。」と己起雄さんは語る。

「子どもたちも私たちと同じように地元として那須町を愛しているらしい」と奥田さん夫婦は願っている。